

情報・企画・広報委員会 中間報告

(平成 22 年 12 月)

京都府医師会 情報・企画・広報委員会

京都府医師会が目指すキーワードは「京都から医療新生を」である。このひとつとして「医師が心をつなげて結集できる医師会」の実現が重要であり、勤務医問題、臨床研修医問題への対応が、喫緊の課題としてあげられる。

今期の情報・企画・広報委員会では、3名の若手勤務医の先生にご参加いただき、臨床研修、臨床経験、地域医療や医師・患者関係のあり方、生涯教育や医療安全の問題など、多岐にわたる問題について開業医と勤務医の経験・意識のギャップ、年齢層による意識のギャップ等をざっくばらんに語り合うことで、開業医、勤務医の区別なく、京都府の医療提供体制の発展を目指すための「医療新生の理念」をともに考える土壌の構築を図るべく、企画検討に取り組んでいる。

今般、新会館の竣工とともに、平成 23 年 4 月に開催が予定される「新研修医総合オリエンテーション」「京都府医療トレーニングセンター」における各種の取り組みをより有意義なものとするため、本委員会として、以下の考えのもと企画を提案したい。

本委員会として、府医担当理事や若手勤務医（指導医等）および研修医からの聴取により把握している現状としては、

- ・ 大学も病院も医師会も研修 3 年目以降の研修医の所在をつかむことが困難。
- ・ 研修医は回りのことを知りたい。隣の病院の研修内容を知りたい。
- ・ 研修医も情報過多で情報の選別に苦労している。
- ・ I T に関して、研修医も得手不得手で二極化している。
- ・ 同級生での ML や懇親会等はすでに存在するケースもあるが、ここから漏れている研修医も存在する。

などがあげられ、情報の入手、利用、伝達面で格差が広がっていると考える。

これらの現状に対し、府医としては、京都府全体で「良医」を育てるための施策を展開するとともに、「研修医・医師を孤立させない医師会」を目指すべきであると考え。そのために府医が取り組む事業として、

- 1) 京都府内全域の病院に所属する研修医が知り合うきっかけとなる場の提供
(新研修医総合オリエンテーション等の充実)
- 2) 京都府研修医メーリングリストの構築
- 3) 医療教育情報の共有化：各病院の院内研修会や府医での研修会等を配信（ライブラリ化）、情報端末装置により簡易取得できるシステムの構築

を提案する。

すなわち、これらにより研修医がどこの医療機関においても過不足なく情報を共有し、研鑽することができるシステムを全国に先駆けて京都から発信することができ、10年後、20年後にはこの事業に支えられた医師が数千人育つことになる。

これこそが「京都からの医療新生」の一端を担うのではないかと考える。

【参 考】

■京都府研修医メーリングリスト（研修医ML）

開始時期	平成 23 年 4 月
対 象	初年度研修医 ※平成 23 年 3 月に卒業し、京都府内の病院で従事する者。京都府出身の者。 将来、京都府で勤務したいと考える者。
管 理	府医各担当理事（及び希望する理事）、事務局（理事のサポート）。 ※府医からのML参加者はML上で公表する。
運 営	・ML運営チーム（2年目研修医等若干名＋初年度研修医有志 5～10名） ※研修医に自主的に運営していただくのが理想。 ※できれば出身大学、地域を分散する。 （例：京大3、府立3、他学3、市内6、府下4 等） ・府医臨床研修のあり方に関する検討委員会 ・府医情報・企画・広報委員会 ※研修医オリエンテーション等の機会で作業グループ制を導入し、 ML投稿を促す。
目 的	研修医同士の情報交換、意見交換の場とする。 府医からは相談、情報提供等あらゆる面でバックアップを行う。 臨床Q&Aに対応するため、各病院の専門医に回答をお願いする。 各分野のエキスパートからの回答で、MLの魅力アップを図る。

コメント　まずは単年度でスタート。複数年度を取るかどうかは様子を見ながら判断する。でき得る限り研修医の自主運営が望ましい。府医からの直接の参加は窓口となる理事、事務局程度とし、裏でバックアップする体勢を整える。バックアップは多岐にわたるので、関連する理事がそれに当たり、必要に応じて各種委員会等に分担する。

今後、研修医 ML と関連事業とを統合して構築・運営する必要がある。

府医として卒後 10 年ぐらいは面倒を見る覚悟を。従って ML も 10 年は関与。その後、どうするかは今後 10 年以内に結論を出す。

研修医には、年に一回、近況報告を提出してもらおう。これは現状把握のため。
(提出方法は要検討)

■医療教育情報の共有化

各病院では、それぞれ研修用に講演会や勉強会を行っている。また研修情報をそれぞれに作成しているのが現状である。このそれぞれに行っている部分を統合し府内医療機関で分担、分散すれば指導医、研修医両者の負担の軽減につながると考える。

具体的には

1. ライブ配信、録画配信、まとめファイル、小型情報端末を利用し、いつでも何処でも研鑽できるシステムの構築を行う。
2. 会員にもオープンとし、府内全域の医療レベルの向上を目指す。

詳細は今後更に検討する。

■その他、情報・企画・広報委員会からの提案

- 1) 新会館にアナログ情報も充実させ、高齢者で溢れる医師会館も魅力である。「高齢者に優しい医師会館」を目指すべき。
- 2) 新会館に府民向けブースを設置し、医療・健康に纏わる Q & A 等を作成し、情報提供してはどうか。具体的には、京大工学部情報学科の研究室等とタイアップすることで、安価で魅力的なシステムを構築できる可能性が高い。
- 3) 研修等における「医療面接」に東映の俳優を患者役として導入してはどうか。臨場感・緊迫感のある研修となる。

※上記 2)、3) については、後日、具体的な企画書を提出する。

情報・企画・広報委員会

(敬称略、五十音順)

委員長	池田 正隆	(左京医師会)
副委員長	禹 満	(西陣医師会)
委員	巨島 文子	(京都第一赤十字病院)
委員	辻 正孝	(京都第一赤十字病院)
委員	畑山 博	(中京東部医師会)
委員	東田 文男	(京都新聞社)
委員	松田 義和	(山科医師会)
委員	横松 孝史	(三菱京都病院)

担当副会長	久山 元
担当理事	藤井 純司